

教科等研究会（小学校家庭部会）

令和2年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

くらしをみつめ、家族や地域の一員として
生活をよりよくしようと工夫する児童の育成
～児童が達成感をもち、家庭での実践につながる授業づくり～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回（理事のみ参加）		
7/6	14名	高木小学校	11/19	高木小学校	実技研究会	1/22	益城中央小学校	下田景子 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

○実技研修会（ソーイング実習）

ソーイング（ミシン実習）では、トートバッグ製作を行った。最初に、製作の手順やポイント、誤りやすい点を確認し、バッグの大きさから縫いしろの幅や折り幅を考え、材料の布に印をつける作業から始めた。わき縫い、出し入れ口縫い、ラインテープの縫い付けをし、最後に、底面（マチ）をつけるために、底を広げて両端を二等辺三角形に折って縫った。参加者全員が集中して楽しく製作することができ、手作りのよさを実感した。トートバッグ作りは、6年「楽しくソーイング」の見本作品になる実技研だった。



【まち針でとめ、しつけする】



【出し入れ口を縫う】



【トートバッグ完成】

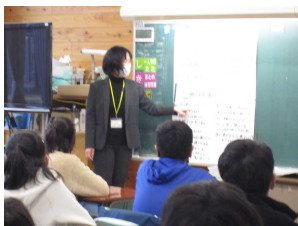
(2) 成果と課題（成果○ 課題●）

- 地域で経験した困ったことやよいと感じたこと、うれしかったことなどを出し合うことで、地域の人々との関わりに関心を持ち、問題を見つけることができた。
- 地域の中で気持ちよく生活するために気をつけていることやその理由を考えさせることで、児童は、自分と地域との関わりや協力することの大切さに気付くことができた。
- 地域で快適に生活するための課題を設定し、解決へ向けての実践計画を立てることで、児童の意欲を高め、主体的に学習することができた。
- 他教科との関連を図ったり、児童が達成感や成就感を味わうための手立てや工夫をしたりして、家庭や地域での実践意欲につなぐことができる題材だった。
- 地域の一員として自分ができることを考え、実際に活動することは、児童の達成感や自信につながると考えられる。
- 実技研修では、ソーイング実習を実施し、見本作品の製作や楽しく役に立つ研修ができた。手作りのよさを実感することができた。
- 児童の実態を把握し、授業者が児童のくらしを知り、個に応じた支援や実態に即した学習づくりを行うこと、特に配慮が必要な児童においては、児童が意欲的に学習に取り組むことができるように支援をし、家庭との連携を図りながら学習を進めることが必要である。
- 評価方法については、実践への意欲をさらに高めるために研究を深める必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

題材名 6年「共に生きる生活」(開隆堂) 授業者 益城中央小学校 下田 景子 教諭
 本題材は、家族や地域との関わりについて、「協力」などの視点から課題を持ち、よりよい関わりについて考えるとともに、感謝の気持ちの伝え方を工夫することができることをねらいとしている。家族や地域の人々との関わりについて課題を見つけ、解決方法や自分ができることを考えていた。児童は、ゴミ拾いや草取りをしてきれいにすることや気持ちのよいあいさつをすること、ルールを守って人に迷惑をかけないことや困っている人に声をかけ、助け合うことなどを発表し、地域の一員として大切なこと(感謝・協力・人のため・気持ちいい・優しさ)に気付くことができた。最後に、家庭や地域で自分が実践することを考え、工夫したことを互いに伝え合い、実践への意欲を高めていた。



【前時のふり返り】



【実践することを決める】



【実践計画を発表】



【板書】

(2) 学習構想案

1 単元構想

単元名	共に生きる生活 (開隆堂 P.104～P.109)		
単元の目標	(1)家族や地域の人々との関わりについて、家族や地域の人々との「協力」などの視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識を身に付け、よりよい関わりについて考え、工夫することができる。 (2)身近な人々の関わりについて考え、感謝の気持ちの伝え方を工夫することができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。 ②環境に配慮した生活の仕方などについて理解し、基礎的基本的な知識を身につけている。	①家族や地域の人々との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え実践を評価改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①生活をよりよくしようと家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり振り返って改善したりして生活を工夫し、実践しようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
自分や身近な人々との生活や環境との関わりに気付き、地域で快適に生活するための課題を設定し、解決へ向けて取り組みながら、地域の人々との関わり方を工夫しようとする児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
自分と身近な人々との生活や環境との関わりについて考え、その関わり方について工夫して実践しよう。		家族や地域の人々との協力などの視点から、よりよい関わり方について考え、工夫すること。	
指導計画と評価計画(10時間取扱い 本時 2/10)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等
私たち	1	地域で経験した困ったこと、よいと	★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」 ★【思】家族や地域の人々との関わり

の生活と地域		感じたこと、うれしかったことなどを出し合う。	に関心をもち、気づいたことを発言している。(学習カード、発言)
	2	一人ひとりが課題を見つけ、家庭実践も含めて調べる計画をたてる。(本時)	★【思】家族や地域の人々とのよりよい関わりについて解決方法を考え、工夫している。(学習カード)
	3	調べたことや実践して気付いたことをまとめ、発表する。	★【主】家族や地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(発表、学習カード)
	4	発表で気付いたことを自分の生活に生かす。	★【知】家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。(発言、学習カード)
私たちの気持ちを伝えよう	5	身近な人へ感謝の気持ちを伝える方法を考え、計画をたてる。	★【思】感謝の表し方や伝え方を考え工夫している。(学習カード)
	6	身近な人へ感謝の気持ちを伝える計画にそって、工夫して実践する。	★【知】学習したことを生かして、感謝の気持ちを伝えるための作業を理解している。(作品、行動観察) ★【主】身近な人との関わり大切さが分かり感謝の気持ちを伝えようとしている。(行動観察・学習カード)
	7 8		
考えよう これからの生活	9	家族の一員として家庭や地域でできることを考えよう。	★【思】家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、実践を評価したり、改善したりしている。(学習カード)
成長した私たち 中学生に向かって	10	小学校で学んだことを生かし、中学校で学びたいことを考える。 ・できるようになったことを確認する。 ・生活の中で活用できているか考える。 ・中学校で学びたいことを考え、これからの学習へつなげる。	★【主】これまでの学習を振り返ってできるようになったことを確認し、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫し、家庭や地域で実践しようとしている。(学習カード、発言)

2 単元における系統

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
「A家族・家庭生活」	(3)家族や地域の人々との関わり ア (イ) 地域の人々との関わり イ家族や地域の人々との関わり工夫
教材・題材の価値	
家族や地域の人々との関わりを工夫することを通して、将来にわたって地域の一員としてできることを考え、安全かつ快適で豊かな家庭生活を工夫しようとする態度を養うことに適している。	
本単元における系統	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 第5学年 やってみよう 家庭の仕事 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 第6学年 わたしの生活時間 <div style="border: 3px double black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 共に生きる生活 </div> </div>

3 本時の学習

(1) 目標 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて解決方法を考え、工夫している。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ ①前時の学習を振り返る。 ◇挨拶を返してもらえず、嫌な思いをしたな。 【めあて】 自分と地域の生活を見つめ、できることを考えることができる。	○前時の意見を掲示しておいて、地域の中で困っていることにどんなことがあったかを振り返る。 ○地域には様々なルールがあることを確認し、自分と地域との関わりについて考えることを伝える。
展開	30分	2 自分の生活と地域の関わりについて振り返り、できることを考える。 ①自分の生活について振り返る。 【学習課題】 地域の中で、自分はよりよい生活ができているだろうか。 ◇横断歩道に立ってくれている人に、挨拶をしている。 ◇家でゴミの分別をしてルールを守って捨てている。 1ペアでできることについて考える。 ◇自分の家でゴミの分別を手伝おう。 地域のルールを守ってちゃんと出すと、みんなが気持ちいい。 ◇登下校の時、立ってる人に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてみよう。 3自分ができることを決め、計画を立てる。 【期待される学びの姿】 家庭や地域の中で、地域の一員として自分ができていることを考えようとしている。 ◇家のゴミ出しを手伝って、ゴミ出しのきまりを確かめてみよう。 ◇横断歩道に立ってくれている人へ感謝の気持ちを伝えてみよう。 ◇登下校の時、落ちてるゴミを見つけたら、拾うようにしよう。	○事前のアンケート「気持ちよく生活するために気を付けていることがある」の結果を知らせ、どんなことを気を付けているか発表させる。 ある21人、ない4人 ○そう考えた理由や気を付けていることを詳しく書くことで、ルールを守る、感謝の気持ちをもつ、協力することなどが大切なことに気付かせる。 ○さらに地域の一員として、もっと自分たちで工夫できることはないかペアで考えさせる。 ○理由を発表させることで、地域の一員として大切なことをキーワードでまとめていくようにする。「感謝」「協力」「人のために」「気持ちいい」「優しさ」など ○地域の一員として、よりよい生活をしていくために、自分ができていることを考えさせ、実践していくことを決めさせる。 ○来週まで家庭で実践し、実践発表会をすることをつたえる。 【具体的評価基準】 思 ○家族や地域の人々とのよりよい関わりについて自分ができていることを考え、工夫している。 (方法：ワークシート・発言) 【到達していない児童への手立て】 ○班の人の課題や解決方法を聞き、参考にさせる。
終末	10分	4 本時の振り返りをする。 【まとめ】 よりよい生活のためには、協力し合うことや思いやりが大切であることが分かった。これから、自分が考えた方法を実践していきたい。	○自分が実践することを発表させ、実践への意欲へつなげる。 ○次時は、実践を持ち寄って気づきを出し合うことを伝える。